

GCOE 国際会議出席報告書 (外国旅費用)

拠点リーダー 川合 光 殿

(ふりがな) 氏 名	にしづか なおと	所属・職名	指導教員名 (院生の場合)
	西塚 直人	天文台・D2	柴田 一成
Tel,Fax e-mail	nisizuka@kwasan.kyoto-u.ac.jp		
発表題名	Giant Chromospheric Anemone Jet observed with Hinode and Magnetic Reconnection Model		
著者名	N. Nishizuka, M. Shimizu, T. Nakamura, K. Otsuji, T. J. Okamoto, Y. Katsukawa, and K. Shibata		
会議名称 ・開催期間	自 2008年 9月 29日 ~ 至 2008年 10月 3日		
開催地 (国、市)	アメリカ合衆国、コロラド州ボルダー		
出張期間	自 2008年 9月 28日 ~ 至 2008年 10月 5日		
国別参加者数	日本 50 人、アメリカ合衆国 50 人、イギリス 40 人、中国・インド・その他のヨーロッパの国々 30 人		
<p>表内容、聴衆の反応、質疑応答、その他について簡潔に記述してください。 (口頭発表・ポスター発表の別も文中に明記すること。)</p> <p>今年 2008 年 9 月 28 日から 10 月 5 日の 8 日間、アメリカ合衆国コロラド州ボルダーで開催された国際会議 “第 2 回ひのでサイエンスミーティング Hinode 2 Beyond discovery – Toward Understanding” に参加発表してきましたので報告します。私は、”Giant Chromospheric Anemone Jet observed with Hinode and Magnetic Reconnection Model” という題名で、ポスター発表を行ないました。先々月 Astrophysical Journal letter に掲載された論文の内容で、論文の別刷りやポスターのコピーを持参し、見に来てもらった方々に自分の研究内容を紹介するとてもいい機会になりました。発表内容は、ひので衛星の高空間分解能(太陽表面 150km)・高時間分解能(6 秒)で初めて彩層ジェットの詳細な内部構造と微小な波動の伝播を観測することに成功したこと、可視光・極端紫外線・軟 X 線による多波長観測の比較、磁気リコネクションモデルに基づいた磁気流体シミュレーションとの比較結果を報告したもので、観測とシミュレーションの非常によい一致から、磁気リコネクションモデルおよびリコネクションに伴うアルフヴェン波の伝播をよく支持する可能性を示しました。ひのでサイエンスミーティングということで、アメリカ、イギリスを中心に世界中の研究者が成果を報告に集まり、外国人の開発コアメンバーの人たちからも貴重なコメントをもらえました。特に観測家の方々からは、観測とシミュレーションがよく一致していたので非常に驚かれ、賞賛を戴いたのでとても刺激になりました。また、今回の研究対象である彩層と領域が接しているコロナ観測や浮上磁場を研究している方々からも質問を戴き、お互いの理解を深め、エネルギーの輸送やダイナミクスの相互のつながり、また互いの解析方法について議論することができました。</p>			